

二世帯住宅研究所設立 30 年を機に、社会と家族の意識の変化を反映して 「ヘーベルハウスの二世帯百科」を発刊

旭化成ホームズ株式会社（本社：東京都 新宿区、代表取締役社長：平居 正仁）は、平成 22 年 11 月 19 日、「ヘーベルハウスの二世帯百科」を発刊いたしました。

当社は、昭和 48 年に二世帯住宅の研究に着手し、昭和 50 年には「ヘーベルハウス 二世帯住宅」として新たな同居形態を提案する商品を業界に先駆けて発売いたしました。昭和 55 年には二世帯住宅研究所を設立し、入居者へのアンケート調査や詳細な訪問調査によりさまざまな調査研究を行ない、シンポジウムや機関誌等を通じて広く調査結果を発表すると共に、調査に基づく具体的な二世帯の住まい方提案を数多く行ない、二世帯住宅という新しい住まい方の普及に努めてまいりました。これらの成果を取りまとめ、昭和 61 年には「二世帯住宅百科」を発刊、その後改訂等により版を重ねてまいりました。

この度、二世帯住宅研究所設立から 30 年を機に、少子高齢化が一層進展する中で社会状況や家族の意識も大きく変化をしていることを踏まえ、この内容を全面的に編纂し直した「ヘーベルハウスの二世帯百科」を発刊いたしました。

今回の百科の特徴は、これまでの“いかに生活を分離しながら二世帯が交流するか”、という「独立と交流」のメインテーマに、同居のメリットを見直すことでより積極的に“独立しながらも協力して暮らす”視点を加え、親子同居に興味をお持ちの方をはじめ、具体的に二世帯同居を考える方にも、段階的に分かり易く二世帯同居について学んでいただけるように、編纂したことです。今回はハンディな A5 版 154 ページの体裁とし、どこでも読みやすいものとししました。ご希望の方には当社のホームページからのお申し込みで無料にて頒布しております。

1. 「二世帯百科」発刊の背景

昭和 48 年から二世帯住宅の研究に取り組み始めた当社は、昭和 50 年に初めて「二世帯住宅」という言葉を世に送り出しました。以来、実際に二世帯住宅にお住まいの入居者へのアンケート調査や訪問調査を繰り返し行ない、親子同居についてのさまざまな調査・研究を重ねると共に、それに基づく提案をしてまいりました。これらの提案の中には、本書でもご紹介しているように、入居者が集まり 1 年にわたって話し合いまとめあげた「親子同居の 7 原則」など、今でも親子同居を始める際の規範となり得る考え方が少なくありません。

最近では、少子高齢化の進展や待機児童の増加、在宅で介護サービスを受けつつ自立した生活を送りたいという高齢者の意識など社会背景が変化している中、二世帯で協力して暮らす融合志向の高まりが見られ、新しい形での二世帯同居が注目されています。そこで、当社の 30 年にわたる二世帯住宅の調査・研究成果や蓄積したノウハウを、親子同居に興味を持つ方やこれから家づくりを考える方に向けわかりやすく解説した内容にまとめ、本

書を発刊いたしました。

2. 「二世帯百科」の概要

本書は、これまでに発刊された「二世帯住宅百科」「新・二世帯住宅百科」「二世帯同居大研究」等に較べ、当社のこれまでの親子同居や、子育て期家族、加齢配慮などに対するアンケート調査・訪問調査等に基づく研究成果を踏まえた提案を、より読みやすくまとめています。また、これから住まいや同居を考える方にも気軽に手にとっていただけるよう、コンパクトなハンディタイプの版形にしております。

具体的には、まず二世帯同居の良さを認識し、その暮らしをイメージするステップに始まり、続いて、暮らしに合った二世帯住宅を作る際の基本的な考え方についてまとめています。そして、二世帯それぞれの生活空間をどのように作っていけばよいかを、同居当初(現在)と将来にわたって提案し、モデルプランを示しています。この他、3階建ての場合の構成や、二世帯住宅に求められる性能についても解説しています。以上の内容を、8つのステップで、段階を追いながら二世帯住宅について理解を深めていただけるようになっています。

タイトル：ヘーベルハウスの二世帯百科

体裁：A5版 154ページ

3. 当社の二世帯住宅に関わる活動の沿革

当社では昭和48年に二世帯住宅の研究に着手し、昭和50年には初めて「二世帯住宅」という言葉を世に送り出し、昭和54年、親子同居の実態に関する調査を実施、昭和55年に二世帯住宅研究所を設立しました。また、平成元年には共働き世帯の増加とそれに伴う家族や暮らし、住まいの変化などについて研究するために共働き家族研究所を設立しました。

以後、シンポジウムの開催や各種調査の実施と公表、入居者への定点観測的な調査、研究所報等の発行などを続け、二世帯住宅という新しい住まい方の普及に努めてまいりました。主な研究内容については添付をご参照ください。

平成21年には二世帯住宅研究所や共働き家族研究所を統括する機関として、くらしノベーション研究所を設立。今年平成22年には二世帯同居における「孫共育」についての研究成果を発表いたしました。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

旭化成ホームズ株式会社 広報室

tel 03-3344-7115 fax 03-3344-7050

〒160-8345 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル

これまでの主な研究報告

二世帯住宅（二世帯住宅研究所 1980～）

◆親子同居と住まい方のシンポジウム

- | | | |
|------|------|-----------------------------|
| 1980 | 第1回 | 親子同居と住まい方はどうあるべきか—今後の二世帯住宅 |
| 1981 | 第2回 | 今後の二世帯住宅 |
| 1982 | 第3回 | 「西の家族・東の家族」—東京・大阪 同居家族調査の概要 |
| 1984 | 第4回 | 「家族そして親子同居」—その現状と課題 |
| 1985 | 第5回 | 時間の経過と世代間コミュニケーション |
| 1986 | 第6回 | 息子夫婦同居・娘夫婦同居 その違いと住まい方提案 |
| 1987 | 第7回 | 世代別にみる同居観の違いと住まい方提案 |
| 1988 | 第8回 | 息子夫婦同居・娘夫婦同居 その違いと住まい方提案Ⅱ |
| 1989 | 第9回 | 「将来同居」その意識と住まい |
| 1990 | 第10回 | 二世帯の望ましいかかわり方 |
| 1992 | 第11回 | 50坪二世帯住宅30の暮らし方提案 |

◆調査報告書

- | | |
|------|--|
| 1994 | 長寿社会における息子夫婦同居・娘夫婦同居比較調査 |
| 1995 | いきいきシルバーライフ～親子同居における住居形態別比較調査 |
| 1997 | 祖父母と孫の関係～居住形態による比較調査 |
| 1998 | 二世帯同居の意識変化調査 ～1994年と1997年との比較 |
| 2002 | 二世帯同居型住宅の家族20年の軌跡 |
| 2005 | 二世帯同居・この10年～定点調査で振り返る同居意識と実態の変容 |
| 2007 | 親子同居スタイル・多様化の実態～二世帯住宅における独立と融合～ |
| 2010 | 二世帯同居における『孫共育』～家事育児協力のための新しいNice Separation～ |

◆情報発信

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 1981～98 | 二世帯住宅研究所報「二重奏」創刊号～第65号 |
| 2004～ | 二世帯住宅で暮らす(AllAbout 住まいにて毎月更新中) |

共働き家族（共働き家族研究所 1989～）

◆調査報告書

- | | |
|------|---|
| 1989 | 共働き家族の時代を考える「共働き家族・専業主婦家族」比較調査 |
| 1990 | 東京・ニューヨーク・ロンドン「共働き家族の生活」比較調査 |
| 1990 | DEWKSの暮らしについての調査 |
| 1991 | DEWKSの仕事と子育て観 |
| 1991 | 家族コミュニケーションの状況とそのあり方～共働き家族と専業主婦家族の比較をまじえて |
| 1991 | 共働き家族における親効果～親世帯との居住距離による比較～ |
| 1993 | DEWKS時代の“男の鑑別法”「家事をする男」と「家事をしない男」比較調査 |
| 1994 | 母親から見た子供の家事協力 |
| 1995 | 家事のゆくえ～外部サービスの利用と家庭処理の比較を通して～ |
| 1996 | 家計費の分担からみた「男女均等時代の夫婦関係」比較調査 |
| 2009 | 家族の生活時間～そのバランスとリズム～ |

◆情報発信

- | | |
|---------|--|
| 1989～99 | 共働き家族研究所発行「DEWKS net」創刊号～第50号 |
| | DEWKS: Double Employed With Kids(子供のいる共働き家族) |